横浜市立高田東小学校

平成27年度　学力向上アクションプラン

1　学校の状況と地域の実態

（1）　昨年度までは「伝え合う力の育成」をテーマに共同研究を通して児童の学力向上を図ってきた。今年度はその成果をふまえ、「相手意識をもち、自分の思いを表現できる」ことをテーマにさらに学力向上を図っていく。

（2）　特別支援教育の考え方に基づき、「学びのユニバーサルデザイン化」を視野に入れた教育環境、授業改善を行っており、教職員の授業改善への意欲は徐々に育っている。

（3）　経験６年以下の若年層が約半数を占める。校内 0JT によるが人材育成が指導力向上の鍵になると考える。

（4）　小中連携・一貫教育の推進に向け、高田小・高田中との連携を進めるだけでなく、「共育のまち　高田プラン」の実現に向け、地域とのさらなる連携も進めている。

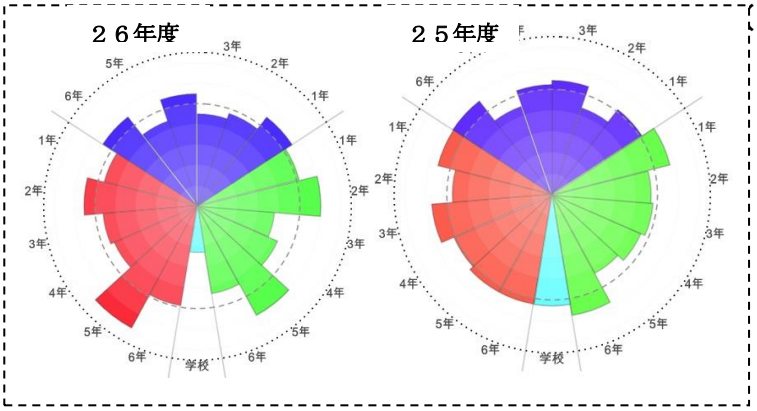
2　今後3年間の方向（中期学校経営方針）

（1）学力向上重点目標「中期学校経営方針」（平成25年度～27年度における27年度班）

ア　「学びのユニバーサルデザイン」の考え方を取り入れた指導法を工夫することによって、どの子どもにも「わかる」「できる」授業づくりに努めています。

イ　自分の考えも他者の考えも大切にした上で、自分の思いを積極的に表現し、伝えようとすることを大切にしながら、教科等の本質をとらえた「感性」を育成しています。

3　横浜市学力学習状況調査等からの平成26年度の実態把握



（1）学力の概要と要因の分析

学びのユニバーサルデザインの考えを取り入れ、丁寧な指導を行っているが、成果が数値に表れていない学年もある。

学習意識や生活意識と学力については、学年差があり、その相関関係も見られる。数値としては決して高くはないが、勉強が好き、授業はわかると回答している児童の割合が多いが、学習内容が身に付いていないことも多いため、この意欲を結果に結びつける指導法の改善が急務である。

（2）教科学習の状況

○国語科：「話すこと・聞くこと」について課題がある。汎用的な技能の育成を視野に入れ、国語科を核にしながらすべての学習活動で関連した指導の必要性が高い。

○算数科：「数学的な考え方」についてはほぼ市平均であるが、「技能」の学年差が大きく市平均に達していない学年もある。思考・判断と技能の関連を図った指導の改善が必要である。

○社会科：どの観点もほぼ市平均程度である。「知識・理解」は比較的高いため、それを「思考・判断」と結びつける指導を行い、確かな知識・理解に質を高めていく必要がある。

○理　科：学年差が大きい。総じて市平均程度であるが、理科嫌いの割合が多い。興味・関心をさらに高める指導の改善が必要である。

（3）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

ここ数年の経年変化を見ると、全体的に学力・学習意識・生活意識がなだらかであるが向上しているが学年差も大きくなっていることがわかる。一人ひとりの子どもの実態に目を向け、「学びのユニバーサルデザイン化」に取り組んできたことが、徐々に結果に出てきていると考える。

さらに、教科を貫く汎用的な技能を学校として共通な考えで指導をしていくことで、学年差の解消につながると考える。共同研究は国語科であるが、国語科を窓口に広く本校の「学力」を問う研究を進めることも効果的であると思われる。

4 平成27年度 目標と 具体的方策

平成27年度 目標 「互いのよさに気づく感性を高め、共に学びをつくりあげる子の育成」

（１）学校組織としての共通の取組

○「聴いて・考え・つなげる」学習の具現化

・共同研究の研究主題及び国語科に視点をあてた授業改善を通して、聴いて・考え・つなげる学習の実践を図る。

○ 基礎的な学力の向上に関する取組

・「学びのユニバーサルデザイン化」によって基礎学力の向上を図る。

・子ども同士が共に学びをつくりあげることにより、互いに感化され、学力向上につながる。

○ 共同研究（校内研修）の時間の確保

・学校運営組織の再編成や会議の統合、行事の精選等を大胆に行い、研究・研修の時間をより確保する。

（２）学年・教科等としての取組

１学年

○国語では、教科書の音読や暗唱、漢字や視写のような基礎基本の学習に重点を置くだけではなく、言語の働き、種類、使用方法といった内容も指導していきたい、○算数では、足し算や引き算を計算カードやフラッシュカードを用いた習熟を図るだけではなく、日常の生活との関連を重視した学習内容を盛り込みたい。

２学年

○読書に親しむ心を育み、読むことを楽しむことのできる態度を育てる。相手意識を大切にした書く活動や、ペアやグループでの話し合いに取り組む。

○各教科を関連させて、子ども達の興味・関心を引き出しながら、何度も何度も試行錯誤できる場面を作り、考えることの楽しさを体験させていく。

３学年

○自分の思いや考えを、相手を意識した話し方で伝えることや、話の要点に気を付けて話を聞いたりまとめたりする活動を、国語だけでなく多くの教科に取り入れていく。

○学習意欲が高いので、自主学習などで学習の仕方を身につけさせ、既習学習を振り返るとともに、興味関心のある学習をさらに掘り下げて学んでいくことで、学習内容の定着と発展を促していく。

４学年

○国語や社会・理科等の教科で、学習過程で学んだ知識や技能を習得するために一人ひとりの子どもに反覆練習やスモールステップなどを活用し、知識理解するように促していきたい。また、自分の意見と関係付ながら共感したり、違う考えについて考えたりしながらお互いの思考を深めていく学習場面を各教科・領域で位置付ける。○順序を付けたり関連付けたりして考える学習を各教科・領域で計画的に行う。

５学年

○各教科の既習事項を活用して文章を組み立てたり、自分の考えを整理して簡潔にまとめたりする活動を通して、書く力を付ける。算数においては反復練習を促し、学習内容の定着を図る。

○学習意識を高めるために、学習することの意味を大切にし、学習したことと実際の生活を結び付けるようにする。また、できた喜びを感じさせ、自分自身に自信を付ける。

６学年

○国語や算数、理科において基礎的な学習の定着をより一層図る必要があり、既習事項の確認や反復練習を促していきたい。学習に対する意識が高いので、各教科とも基礎基本を中心に丁寧に指導していきたい。

○各教科・領域とも知識が定着していないが、思考力は高まっている傾向がある。知識を確実につけることで、さらに深い思考ができるようにする。

個別支援学級

○個別の支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、行動、書き言葉など、発達段階や特性に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。

○国語科をはじめとする各教科や、学校生活の中で、先生や友達の話を聞いたり、自分の思いを伝えたりする場を大切にし、それぞれの子どもの発達段階に応じた言語活動のスキルを身につけることができるようにする。

○学習環境の整備、指導方法の工夫をし、一人ひとりの子どもの「わかる」「できる」につながる授業を展開する。